

日本で一番大切にしたい会社

法政大学大学院政策創造研究所教授 坂本 光司

人を大切にする経営学会を設立「日本で一番大切にしたい会社」大賞という表彰制度をスタート、設立総会では経営者・学者・研究者・医師・弁護士・公認会計士・社会保険労務士・いろんな分野の経営コンサルタント等約600名が全国から参集した。

本シリーズで5冊目、合計67万部を超えた、更に、中国・台湾・韓国でも翻訳され販売。

本のシリーズを読んだ中国在住の女性からメールで「本を読んで涙が止まらなかった」企業のあるべき姿だと気づき、会社を辞めて日本に行きたいと決意、様々な困難を克服して、坂本教授の尽力も得て、「真の経営学」を大学の研究所で学んでいる。

日本の有名商社マンがこのシリーズのファンで世界中を飛び回っていて海外でもあるはずと・・・遂に中国で自動車部品製造している約2500人の会社社長（日本人）を見つけた、社長はこの本シリーズの愛読者で大半の若い中国人社員とその家族を思う「人本経営」は見事なものだと、坂本教授が大学院生らと同社を訪れて社員に面談、帰り際に秘書室長の女性から「社長は私達みんなの誇り信頼・尊敬していて決してこの企業を裏切りません」と

{ 北海道光生社 }

過疎の赤平市で夢のようなクリーニングの会社を創業した故高江さんは10歳の時事故で右目を失明、19歳で電線工事中に事故で両手を付け根から失い、過酷な逆境にもめげず、奥さんと一緒に「働く場所のない障害者のために」と会社を立ち上げた。

奥さんとの出会いは食堂で働いていた奥さんと知り合い、それまで何度かお見合いをしたが高江さんのように障害者にも拘わらず目をキラキラさせて、将来の夢を熱く語る男性はいなかった「私がこの人の両手の代わりとなって夢を叶えてあげる」と会社設立の苦難な時に結婚、過疎の町で行き場を失った人たちの灯りとなって居場所を提供し続けた。

社員千人・内障害者600人超の会社を育てた、同社の社員旅行は全員で国内・海外旅行が年中行事でジャンボ機をチャーターしてグアムに行ったことも、死ぬまで障害者の面倒を見るとの精神は今も受け継がれている。

{ 死ぬまで此処にいていいわよ }

身寄りのない老女が息を静かに引き取った、老女は（株）クロランの従業員で50才の時に採用し定年を延長し延長し、いつの間にか78歳になっていた。

同社は高齢者・障害者・女性を主役に据えた人間愛溢れる運動着のメーカー、一枚からでもオーダーに応じる強い経営体質、平成27年に厚生労働大臣賞にも選ばれた、従業員は135名平均年齢45歳、最高年齢は78才になる～女性営業課長、女性100名・障害者37名（内11名は重度）奇声を上げる障害者にとことん付き合う、最愛の夫を失った社長夫人を慰め助けてくれたのは障害者の人だった。

自己資本比率86%、無借金会社、本社がある福島で東日本大震災の際には自宅が被災していても従業員全員出社するほど愛されている会社。

精神科医の森越先生は「障害を治すことは難しいが最もよい方法は社会参加・つまり働くことです」森越先生は病院を辞め退職金で精神障害者が働く会社を設立・有言実行の人でした。

{ 会社はみんなのもの }

との信念のもと幸せを輪のように広げるリフォーム会社「さくら住宅」ねじ一本・襖一枚でも嫌がらず直ぐに駆けつける、地域の人・障害の人も集まる、社員のほぼ全員が株主、株主の7割はお客様、リフォーム業界は全国の総合工事業19万余会社で最も危ういFランクは全体の58.8%、D・Eランク含め、89.3%、さくら住宅はAランクの1.6%に入る、仕事の4割近くは他所の会社がやらない5万円以下の工事。

株主の内、お客様66%、社員13%、社長20%所有、株主総会が終わると出席者全員にフルコース料理が、懇親会も終わり、突然に社長と常務（女性）が壇上に呼ばれ社員代表から感謝の表彰「わたくしたち社員をいつも正しい方向に導いていただきありがとうございます」と花束を贈呈された、このアクシデントを知らなかったのは社長と常務だけで社員たちは2週間前から準備していた。

会社で購入する本は月100冊、社員一人当たり2.5冊毎月配られる。同社の経営哲学は「大切な人を大切にすること」大切な人とは ①社員と家族 ②仕入れ先・外注先・協力企業の社員と家族 ③現在顧客と未来顧客 ④地域住民とりわけ障害者など社会的弱者 ⑤株主

{ 女性が大活躍する〈お互いさま〉 }

人から受けた恩は絶対に忘れない精神で社員と家族に支えられる鋼材商社（株）天彦産業・（大阪市）社員40人足らずで（女性は10名）売上43億円（海外比率30%）営業の70%を女性がこなす。

倒産しかけた仲間の会社を救う！

同業者取引が四分の一に達していた会社が倒産のピンチとなり再建に不可欠な人・物・金で解雇しない、給与・賞与も出すと相手の会社にメッセージして、全力で取り組み銀行との困難な交渉にも懸命に尽力して全社一丸となり立て直した～リーマンショックで売上が7割ダウンしても社員を一人も解雇せず。

「奥さんボーナス」に込められた思いに感動した奥さん・家族からお礼の手紙が殺到！

「社員第一主義と3つの幸福」

1. 自らの幸福 2. 家族の幸福 3. 会社の幸福

「社員で構成する4つの委員会で人材育成」

1. トキメキ委員会～社内広報
2. スッキリ委員会～花壇づくり・交通安全
3. ハツラツ委員会～健康管理・献血
4. ヒラメキ委員会～朝礼・読書

平成21年IT経営実践企業として経済産業省表彰、ダイパーシテイ（多様な人材を積極的に活用）100選に、平成25年ビジネスイノベーションワードの特別表彰、安倍首相が会社訪問して女性の活躍ぶりを視察した。

{ 社員と家族を幸せにする }

山の「のり面」等の環境緑化＝日本植生(株)（岡山県津山市）従業員740名、売上213億円、この会社では従業員の事を人は宝だから「人財」と言います。

経営がどんなに厳しい時でも人づくりを忘れるなど、リストラはしない。家族のイベント参加率は100%、毎年末にはグループ従業員全員に「鮭1本」を贈る、自己資本比率は80%、内部留保も年間人件費の6～7倍を確保している、ボーナスは経常利益の50%を充当、社員食堂は社屋の最上階にある見晴らしの良いところに作り、一番くつろげるスペースとした。

創業以来・社員の誕生日には自宅に社長のメッセージとともに線香（先祖への感謝の気持ち）とお菓子が届く。

{ 世の中の役に立つ会社であり続ける }

明太子メーカー(株)ふくや 福岡市中洲、従業員600人、売り上げ150億円、明太子を初めて作り世に出したのは「ふくや」それなのに元祖・本家等の文字は一切使わず、特許も取らず製法を皆に教える利他の心あふれる会社。

一番の社会貢献は利益を出して税金を沢山払うことと、創業者が亡くなる直前の昭和54年には納税額2億円、創業の昭和23年から55年まで税を多く払うためにと個人商店であった、その後も利益の20%を寄付に回す大胆さ！